

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
1. 大学と高校の有機的な接続・連携の強化	<b>（取組1）</b> ・高大双方が高大接続の大きな環境変化に関する情報を共有している。 ・高大接続の諸問題を高校と大学が対等な立場で継続的に検討している。	<b>（取組1）高大連携フォーラム</b> ・フォーラムの開催によって、高校生がスムーズに大学生活に移行できるように、高大接続の問題点について高校・大学の双方が継続的に議論し、双方の学びの場を改善していく。 ・特に大学入試改革や新学習指導要領の実施といった背景を踏まえて、大学と高校間で検討を進めるべきテーマについて、関係者のより積極的な情報交換を促す。	<b>（取組1の活動指標）</b> 開催回数：1回以上／各年 ※数値目標 ・活用割合：会員大学数の60%以上の参加大学数／各年 ・参加者比率：大学と高校からの参加者数が同程度／計画期間内	<b>（取組1の活動実績）</b> （第1回）10/30開催 ・活用割合：14/40校（35.0%） ・参加者比率：大：86.3%（44人）高：13.7%（7人）計51人（その他を含むと計59人） （第2回）2/29開催 ・活用割合：9/40校（22.5%） ・参加者比率：大：56.2%（18人）高：43.8%（14人）計32人（その他を含むと計39人）	<b>A</b> 今年度は、高大における共通課題である「生成AI時代の教育を考える」をテーマに、各回で大学側、高校側と視点を変えたフォーラムを開催した。第1回の参加割合は大学が多いものの、高校からも高い関心を得ることができた。今後も高大双方における課題に関する情報共有や交流促進を図りながら、さらなる参加者数増を目指したい。
	<b>（取組2）</b> ・高校生のニーズが高い情報を厳選して会員大学から収集している。 ・高校生に届きやすい方法で会員大学情報を発信している。	<b>（取組2）会員大学情報の発信</b> ・多くの機関から発信されている大学の多様な情報を踏まえながら、大学コンソーシアム大阪の会員大学共通の案内について、対象者に応じてWebサイトやSNS、紙媒体を有効に活用して発信する。	<b>（取組2の活動指標）</b> 実施回数：1～2回／各年 ※数値目標： ・活用割合：会員大学数の80%以上の大学数／各年 ・ホームページの該当ページの閲覧数：倍増／計画期間内	<b>（取組2の活動実績）</b> 4回 （共通大学案内ブックレット、オープンキャンパス情報、学びWEBフェア、高校生応援プロジェクト） ・活用割合：100%（40/40校） ・ページ閲覧数6,175回（3/31まで） <その他の取組> ・大阪府内の高等学校と大学の連携強化に向けたニーズ調査 7～8月実施 回答件数49校	<b>S</b> 今年度は、左記取組（詳細は以下に記載）によって、事業進捗が当初の計画を大きく上回る結果となったため、大いに評価できる。 ・府内の高校2年生に向けて会員大学の紹介冊子を作成し、府教育委等の協力や会員大学の高校訪問時の持参などにより、約7万6千部配布することができた。 ・大学コンソーシアム大阪のHPを活用したオンライン共同大学説明会（大阪の大学「学び」WEBフェア）や大学の模擬授業が体験できる「高校生応援プロジェクト」を実施し、発信情報の拡充を図ることができた。 ・学生募集の観点を踏まえ、大阪府内の高等学校と大学の連携強化に向けたニーズ調査を実施し、会員大学へ有益

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
					な情報が提供できた。本調査結果を踏まえ、HP、ブックレットともに内容の精査とさらなる充実を図りたい。

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
2. 単位互換プログラムのさらなる充実	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター科目と各大学が担当するオンキャンパス科目の役割やねらいが明確になっている。</li> <li>各大学の強み、ネットワークを活かして「大阪の特徴・魅力」を総合的に学べる機会を提供している。</li> </ul>	<p>(取組1) 単位互換事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター科目とオンキャンパス科目のそれぞれの特長を活かしながら、学生ニーズを踏まえ、大学コンソーシアム大阪で試行的に実施してきた事業の科目化などによってプログラムを充実させる。</li> <li>プログラムによっては、アフターコロナにおいてもオンラインによる授業を継続し、参加にあたっての地理的・時間的制約を払拭させ、参加者の拡大を図る。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>実施回数：1回/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送り出し校数：包括協定校の60%以上の大学数/各年</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>1回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送り出し校数：69.2% (27/39校)</li> </ul>	<p>A</p> <p>今年度は、協定校がさらに1校（桃山学院大学）増え、計39大学となった。</p> <p>出願者数は、センター科目、オンキャンパス科目をあわせて、コロナ前の水準を上回る数に上った。特にセンター科目は提供科目数の約半分がオンライン科目であり、受講者数も伸びていることから、オンライン開講が受講促進の一つの要素となることが伺えた。</p> <p>また、広域単位互換の取組として、南大阪地域大学コンソーシアムとの連携により、今年度も双方から1科目ずつ提供するなど、大阪地域のコンソーシアムが一体となって取り組めたことも高く評価できる。</p> <p>(科目数：計431科目、出願者数：計979人)</p>

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
3. キャリア教育プログラムの充実と支援体制の強化	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加した学生が社会人としての心構えや「働くこと」についての理解を深め、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。</li> <li>留学生、障がい学生、社会人学生など多様な学生と社会をつなぐ機会となっている。</li> </ul>	<p>(取組1) 就業体験型インターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各大学で実施されているインターンシップとはひと味違う就業体験の機会として、産官との連携による特徴的な受け入れ先の拡充や、低年次学生のキャリア支援も意識したプログラムの充実に継続的に取り組んでいく。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>実施回数：1回/各年</p> <p>※数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送り出し大学数：会員大学数の60%以上の参加大学数/各年</li> <li>参加学生数：150人以上/各年</li> <li>受入企業数：100社以上/各年</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送出校数（出願者数）：50.0%（20/40校）</li> <li>参加学生数（実習者数）：139人</li> <li>受入企業数（エントリー数）：117</li> </ul>	<p>A</p> <p>今年度はコロナ禍が落ち着き、学生送出校数、参加学生数ともに微増（昨年度の送出校数：19校162人）、また企業等のエントリー数・受入数も昨年度の約1.2倍とコロナ前の水準に順調に戻っている。事前・事後研修は昨年度に引き続き、プログラム内容を工夫しながら学生の学びの深化と交流促進に努めた。結果、数値目標の学生送出校数及び参加学生数の達成には至らなかったが、本プログラムの実施に対し、学生、受入企業等ともに満足度について9割を超える高評価が得られたことは、評価に値する。</p>
	<p>(取組2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加した学生が現場での経験により、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。</li> <li>学生による提案内容が連携先企業をはじめ、社会的に評価・関心を高めている。</li> </ul>	<p>(取組2) プロジェクト型インターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決型のプログラムであるため、まとまった期間や日数を確保しやすい低年次学生を主な対象として、理解ある民間企業やベンチャー・スタートアップ企業等も視野に入れた連携先を開拓する。</li> <li>また、プログラムの成果についても広く発信することで、大学コンソーシアム大阪会員大学の学生の意識の高揚につなげていく。</li> </ul>	<p>(取組2の活動指標)</p> <p>プログラム本数：2件以上/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数/各年</li> <li>参加学生数：30人以上/各年</li> </ul>	<p>(取組2の活動実績)</p> <p>1件（舞洲PJ）</p> <p>学生送出校数：12.5%（5/40校）</p> <p>参加学生数：8人</p> <p>※従来の「起業インターンシップ」は、方向性的見直しから「取組3 就活クエスト」として実施内容を変更。</p>	<p>B</p> <p>舞洲スポーツイノベーションプロジェクトでは、今年度も引き続き舞洲プロジェクトやプロスポーツチームと連携し、約5か月間にわたる特色あるプログラムを提供することができた。今回は円滑な学生の取組支援のために会員大学教員がメンターを務めた。発表では大学コンソーシアム大阪の学生チームが最優秀賞を受賞した。また活動成果や提案内容に対し、大阪市や大阪エヴェッサの関係者から高い評価を得ることができた。一方、学生の送出校数において数値目標未達であったため、プログラム内容や広報の見直しが求められる。</p>

	<p><b>(取組3)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参集型では難しかった遠隔地や特殊な現場など、これまで知る機会がなかった仕事について、学生が具体的なイメージを持つことができています。</li> <li>・学生が、プログラムを通じて企業活動の意義とそこで働く人の役割の一端を理解している。</li> </ul>	<p><b>(取組3) オンラインプログラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインの特性を活かし、学生や企業が気軽に参加できるプログラムとして、また、遠隔地や特殊な現場など参集型では難しかった職業を学ぶ機会として、その効果を明確にしなが、受け入れ先や内容の拡充を図る。</li> </ul>	<p><b>(取組3の活動指標)</b></p> <p>実施回数：3回以上／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年</li> <li>・参加学生数：60人以上／各年</li> </ul>	<p><b>(取組3の活動実績)</b></p> <p>3回（就活クエスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生送出校数： <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：22.5% (9/40校)</li> <li>第2回：10.0% (4/40校)</li> <li>第3回：12.5% (5/40校)</li> </ul> </li> <li>・参加学生数： <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：12人</li> <li>第2回：5人</li> <li>第3回：5人</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>B</b></p> <p>大阪商工会議所や大阪市（大阪イノベーションハブ）が講師やファシリテーターを務めるなど、産官の積極的な協力を得ながら特色あるプログラムが実施できた。今回はテーマの1つに「起業」を取り上げ、これまで「起業インターンシップ」として実施していた内容を変更し、低年次学生対象のプログラムとして実施した。</p> <p>今年度は集客状況が全般的に芳しくなかったため、事業の方向性や実施内容の見直しが求められる。</p>
	<p><b>(取組4)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時宜に応じたキャリア支援の課題に産官学が連携して対応している。</li> <li>・就職支援のための関連団体との連携が拡大し、充実した支援を実施している。</li> </ul>	<p><b>(取組4) キャリア支援事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のキャリア支援に関する大学のニーズや課題、取り組み内容を共有し、外部組織とも連携しながら、学生や担当教職員向けの支援策を産官学が協力して検討する。</li> </ul>	<p><b>(取組4の活動指標)</b></p> <p>開催回数：1回以上／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年</li> </ul>	<p><b>(取組4の活動実績)</b></p> <p>3回 （大学等教職員向けセミナー）</p> <p>※大学コンソーシアム大阪・大阪府・南大阪地域大学コンソーシアムとの共催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加大学数 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：40.0% (16/40校)</li> <li>第2回：42.5% (17/40校)</li> <li>第3回：30.0% (12/40校)</li> </ul> </li> </ul> <p>※三省合意改正の動向を踏まえながら、インターンシップ推進委員会と共同で推進中。</p>	<p><b>S</b></p> <p>今年度も大学コンソーシアム大阪・大阪府・南大阪地域大学コンソーシアムとの共催により、就職困難層（発達グレーや障害学生）の就職支援に関する大学教職員セミナーを継続開催した。</p> <p>参加者数はいずれの回も数値目標を上回り、本課題に対する関心の高さが伺えた（第1回～第3回の会員大学からの参加者数は延べ64人）。</p> <p>本課題は継続的に取り組む必要があることから、今後も有意義な研修の実施に努めたい。</p>

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
4. 国際交流の活性化	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な目的をもって、国際交流事業を実施している。</li> <li>・さまざまな交流プログラムを検討・実施している。</li> </ul>	<p>(取組1) 他国・他地域との国際交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで大学コンソーシアム大阪で実施してきた台湾との交流事業の実績を踏まえて、対象を教職員や学生に拡大し海外・他地域との交流も進めていく。</li> <li>・交流先の発掘や交流プログラムの企画・運営にあたっては、外部の専門機関との連携等によって効率的・効果的に取り組むこととする。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>交流事業数：1事業／各年（再開以降）</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流事業数：延べ5事業／計画期間</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>※別事業を検討中。</p>	<p>評価なし</p> <p>台湾財団法人国際合作基金会との交流再開に向けて、先方への打診を継続していたが、先方の内部体制が整わず、交流再開の見込みが立たない状況が続いている。</p> <p>これを受けて、次年度以降、別の観点での事業（例えば、留学生誘致の観点等）を検討する方向として検討を進めていく。</p>
	<p>(取組2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の現状と課題を認識し、グローバルな社会課題の解決方策を考えるきっかけとなっている。</li> <li>・多文化共生・異文化理解、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）という価値観を育む機会となっている。</li> </ul>	<p>(取組2) グローバル人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の専門機関との連携等により、効果的なアイデアを選択していく。</li> <li>・学生だけでなく、教職員や社会人の参加も視野に入れたプログラムを検討し、大阪・関西万博と連動する活動や学びが実践できる場を提供する。</li> </ul>	<p>(取組2の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座開催回数：2回以上／各年</li> <li>・国際交流イベント開催回数：1回以上／各年</li> </ul> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座受講者数：延べ300人以上／計画期間内</li> </ul>	<p>(取組2の活動実績)</p> <p>&lt;講座&gt;</p> <p>(第1回)8/29 実施 受講者数：15大学27人 (うち留学生2人)</p> <p>(第2回)3/4、5 実施 受講者数：10大学14人 (うち留学生2人※) ※1名は会員外大学</p> <p>&lt;イベント&gt;</p> <p>大阪まちあるきツアー 3/15 実施 企画学生：8大学10人 (活動期間11月～3月)</p> <p>参加学生数 国内学生：7大学9人 留学生：6大学12人 計21人</p>	<p>S</p> <p>第1回は、「国際協力」をキーワードに国際協力業界の複数の組織と連携することができ、今後の繋がりも期待される。15大学の学生が参加し多様な交流ができた。</p> <p>第2回はレゴブロックを使用した英語によるプログラムを実施し、会員大学以外の留学生も1名参加した。本プログラムによって国内学生と留学生が活発に交流しながらともに学ぶ機会を提供できた。</p> <p>また、国際交流イベントとして、学生によるまちあるきツアーを3月に実施した。有志学生が会員大学の教員の指導を仰ぎながら、内容検討から実施まで主体的に活動が進められている。</p>

	<p>(取組3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が発表に至るまでにグループワークを重ね、プレゼンテーションスキルを学ぶ機会となっている。</li> <li>・国際共通語としての「英語」を用いて、国際的な共通課題の解決策を斬新な発想で考え、意見交換する機会となっている。</li> </ul>	<p>(取組3) 学生英語プレゼンテーションコンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単に英語力を競うコンテストではなく、学生自らが社会的課題に取り組む方策を考え、提案する点を重視し、この点に対する評価軸を再確認しながら参画大学の拡大を図っていく。</li> </ul>	<p>(取組3の活動指標)</p> <p>開催回数：1回／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出場チーム数：15チーム以上／各年</li> <li>・参加者数：英語圏以外の留学生の参加増／計画期間内</li> </ul>	<p>(取組3の活動実績)</p> <p>出場チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11チーム(9大学)</li> </ul> <p>参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者26人(うち留学生5名)</li> <li>・学生運営メンバー8人(実働人数)</li> </ul>	<p>S</p> <p>対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、広く観覧できるよう工夫を行った。(公社)2025年日本国際博覧会協会から審査員として協力を得ることができ、今後のさらなる連携に繋がる機会となった。</p> <p>申込は10大学24チームからあり、予備選考により出場チームを選出した。運営メンバーも24名から応募があり、本コンテストの認知度が向上していることが窺えた。</p>
--	--	--	---	--	--

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
5. 地域連携の促進による大阪・関西の活性化	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に起こっている。</li> <li>学生の提案事項や連携のノウハウが蓄積され、それらを大学コンソーシアム大阪の会員大学や自治体が共有している。</li> <li>大阪・関西万博に向けて、学生がつながり、関わる場となっている。</li> </ul>	<p>(取組1) 地域連携学生フォーラム in Osaka</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携のノウハウの共有や学生の地域連携に対する意識向上の機会という目的は維持しながらも、フォーラムの企画・運営や発表、傍聴といった多様な参加形態を通じた交流の拡大を図る。</li> <li>特に学生による企画・運営では、毎年の運営内容への変化を恐れず、学生の主体性を重視して取り組むこととする。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>開催回数：1回/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表大学、運営メンバーおよび当日の来場者数：会員大学数の50%以上の参加大学数/計画期間内</li> <li>参加する行政・事業所数：15団体以上/計画期間内</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>1回(10/22開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加大学数 55.0%(22/40校)</li> <li>※うち発表大学数 11校</li> <li>行政・事業所数 1団体(大阪府)</li> </ul>	<p>A</p> <p>今年度はコロナ禍の影響を脱し、発表大学数が13大学(9事業)、また当日の参加者は89人に上った。当日は大学個別の取組のほか、府内の8大学連携による取組の紹介があるなど、地域との様々な連携事例やノウハウを共有することができた。</p> <p>なお、本フォーラムは有志学生が企画や運営を行っているが、今年度も学生ならではの参加者交流企画を行うなど、それぞれの学生が主体的に取り組む場を提供することができた。</p>
	<p>(取組2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に生まれている。</li> </ul>	<p>(取組2) 地域連携情報交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体ニーズや情報収集、ネットワーク形成の場として開催を継続しながら、自治体や地域で活動しているキーパーソンの話題提供などによってプログラムを充実させ、大学の参加を拡大する。</li> </ul>	<p>(取組2の活動指標)</p> <p>開催回数：年1回以上/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加大学数：会員大学数の50%以上の参加大学数/計画期間内</li> <li>参加する行政・事業所数：10団体以上/計画期間内</li> </ul>	<p>(取組2の活動実績)</p> <p>1回(1/29開催)</p> <p>参加者数：18人</p> <p>&lt;内訳&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学 22.5%(9/40校)・12人</li> <li>※他、会員外1大学1人あり</li> <li>行政・事業所 2団体・6人</li> <li>※万博協会4人、JTBコミュニケーションデザイン2人</li> </ul>	<p>A</p> <p>大阪・関西万博の開幕を翌年に控える中、今回は万博で活躍する学生ボランティアの在り方をテーマに、大学や万博のそれぞれの関係者による意見交換の場を企画した。</p> <p>万博協会からボランティア募集に関する説明や大学生にとっての万博ボランティアの魅力などが共有され、大阪で学ぶ大学生が主体的に万博に関わり、学びを得ることのできるボランティア活動について忌憚ない意見交換ができた。</p> <p>また、この機会を通じて万博側と意思疎通が図れたことも高く評価できる。</p>

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
6. 研修による大学教職員の資質向上とネットワーク強化	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学のニーズに応じた研修を実施している。</li> <li>研修講師を担える人材の育成が図られている。</li> </ul>	<p>(取組1) 各種研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学職員を対象とした初任者SD研修については、蓄積されてきたノウハウを活用して継続していくこととし、大学が共通して抱える課題やPF形成大学のニーズに沿った研修についても開催を検討する。</li> <li>これらプログラムの拡充にあたっては、委員の負担軽減やプログラムの質の保証を担保する。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>実施回数：2回以上/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数/各年</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>5回</p> <p>〔初任者SD研修3回、ID研修、管理職者SD研修(研究事業の一環として実施)〕</p> <p>&lt;初任者SD研修(計3回)&gt; 教職員送出校数：67.5%(27/40校) (別途 会員外1校あり)</p> <p>&lt;ID研修&gt; HPアクセス数 233件 ※2024年1月現在</p> <p>&lt;管理職者SD研修&gt; 職員送出校数：20.0%(8/40校)</p>	<p><b>S</b></p> <p>初任者SD研修は、各大学の共通ニーズに対応する取組として、内容の精査を図りながら3回にわたる研修が実施できた。インストラクショナルデザイン(ID)研修は、オンデマンド形式にて2022年11月より常時公開しているが、多くの会員大学職員に本研修の活用を促すためにチラシやHPをリニューアルし、再周知を図っている。</p> <p>また、昨年度に引き続き、大学コンソーシアム大阪の中期計画推進に係る提案型研究事業の一環として管理職者SD研修を試行し、新たに管理職者層へ学びを提供するための布石とすることができた。</p>
	<p>(取組2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が主体的に情報交換や交流を行っている。</li> </ul>	<p>(取組2) サロン・ド・大学コンソーシアム大阪</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者のニーズを把握しながら、大学教職員が直面する喫緊の課題を取り上げ、現場の課題に即した情報交換や意見交換の場を継続して提供していく。</li> <li>テーマ設定の工夫などによって多くの教職員等の参加を促進し、ネットワーク形成の場としても機能させていく。</li> </ul>	<p>(取組2の活動指標)</p> <p>開催回数：3回以上/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会員大学の参加率：会員大学数の60%以上の参加大学数/各年</li> </ul>	<p>(取組2の活動実績)</p> <p>3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会員校参加率(計3回)：40.0%(16/40校) (別途 会員外4校あり)</li> </ul>	<p><b>B</b></p> <p>今年度は「生成AI」や「教務の実践知の蓄積を促すケースメソッド」をテーマとし、各回ともに各大学における課題の共有や情報・意見交換の場を提供することができた。第1回「生成AIハンズオンセミナー」では会員校の現役学生が講師を担うなどし、参加者から高い評価を得た。また開催方法に対面とオンラインのハイブリット形式を採用した結果、会員校においては数値目標の参加率達成には至らなかったが、会員外からも一定の参加があり、それぞれのニーズに即した機会提供と幅広いネットワークの構築推進に寄与できた。</p>

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
7. 大阪の様々な課題に対応した取り組みの拡充	(取組1) ・事業の企画運営に学生が主体的に関わる機会が創出されている。	(取組1) 学生ボランティアの拡充 ・各事業に関わる学生ボランティアや学生サポーターの受け皿を大学コンソーシアム大阪事務局で一本化し、大学コンソーシアム大阪の企画・運営委員会において学生活動の支援方法を検討のうえ、各部会で実施する事業等において対応可能な形で、学生が主体的に活躍できる場を創出する。	(取組1の活動指標) 既存事業やその他事業へ学生ボランティア参加：2事業以上/各年  ※数値目標： ・学生の参加数：各部会事業への企画・運営に関わった学生数延べ200人/計画期間内	(取組1の活動実績) 6事業 ・地連連携学生フォーラム ・学生英語プレゼンコンテスト ・国際交流イベント(大阪のまちあるき) ・ACT活動紹介&交流会 ・ACT学生座談会 ・G7大阪・堺貿易大臣会合での通訳ボランティア  ・学生参加数：延べ68人	<b>S</b> 地域連携や国際交流のイベント運営への有志学生の参加のほか、今年度は学生交流イベントの企画・運営を行う学生ボランティアチームACTの活動を地域連携部会に事業移管し、推進委員会で後方支援する仕組みを構築した。これにより、学生に対して適宜助言を行いながら、学生がより主体的に活動できる環境を整えることができたことは、評価に値する。 また、2023年10月に開催されたG7大阪・堺貿易大臣会合に会員大学より11大学22人が通訳ボランティアに参加するなど、多様なテーマで学生の主体的な活動を促進する取組が推進できた。
	(取組2) ・大学間、また産官学の連携による調査や研究が恒常的に実施されている。	(取組2) 連携調査・研究の実施 ・大学間や産官学が共通して取り組むべき課題や事業拡充のための調査・研究を実施し、その結果を各大学での教育や研究、学生支援、大学経営、また地域活動等に活かしてもらおう取り組みを進める。	(取組2の活動指標) 連携調査・研究テーマ数 2テーマ以上/各年  ※数値目標： ・連携調査・研究実施数 延べ15件/計画期間内	(取組2の活動実績) 計6テーマ  調査(4テーマ)： ・新入生薬物意識調査 ・大阪府内の高校と大学の連携強化に向けたニーズ調査 ・会員大学単位互換意向調査 ・リカレントに関する社会人ニーズ調査(大商との連携調査) 研究(2テーマ)： ・中期計画推進に係る提案型研究事業(2件採択)  実施件数：計6件	<b>S</b> 今年度は学生募集の観点を踏まえ、府内の高校における大学との連携状況やニーズの把握を目的とした調査を新たに実施し、高大接続・連携のヒントを得ることができた。また大阪地域のリカレント教育推進にあたり、大阪商工会議所と連携し、社会人ニーズ調査を実施するなど、多種多様なテーマによる調査や研究が実施できたことは高く評価できる。

	<p>(取組 3)          ・産官学連携による課題解決体制が整備されている。</p>	<p>(取組 3) 地域課題に対応した取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪府内地域連携プラットフォームの枠組みにおいて、大阪地域における高等教育グランドデザインに係る協議を継続しながら、その実現に向けて大阪の産官学連携による取り組みを推進する。</li> <li>これによって、大学だけでは完結しない課題や産官学協働による取り組みが求められる課題について、取り組み内容の検討や役割分担等、具体的な推進体制を構築する。</li> </ul>	<p>(取組 3 の活動指標)</p> <p>実施事業数 1 事業以上／各年</p> <p>※数値目標：          ・実施事業数 延べ 5 事業／計画期間内</p>	<p>(取組 3 の活動実績)</p> <p>5 事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開講座 (全 6 回)</li> <li>FD 研修</li> <li>リカレントプログラムの開講</li> <li>大阪府域のリカレント教育推進に関する意見交換会 (全 2 回)</li> <li>リカレントプログラムに関するポータルサイトの新設</li> </ul> <p>※大阪 PF 活動報告会は 2024 年 5 月～6 月に実施予定</p>	<p>S</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開講座では大阪の課題や注目度の高いテーマと大学の特色を掛け合わせた公開講座をリレー方式で 6 回開講した。特に第 1 回では大阪北部地震から 5 年が経過し、危機管理意識が薄れがちな中、防災に対する認識を新たにすることができた。</li> <li>リカレント教育に関して、今年度は IT の知識やスキルの向上を目的としたオンデマンド講座を継続開講したほか、大阪商工会議所と会員大学による意見交換会の開催や会員大学のリカレントプログラムを一元化したポータルサイトを新設する取組を進めた。このように産学連携による大阪府域のリカレント教育推進に向けた取組が実施できたことは大いに評価できる。</li> </ul>
	<p>(取組 4)          ・万博への積極的な参画を通じて大阪・関西の活性化に寄与している。</p>	<p>(取組 4) 大阪・関西万博との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2025 年大阪・関西万博開催に合わせて、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会と連動したシンポジウムの開催や大学コンソーシアム大阪会員大学による大阪・関西万博のテーマに沿った活動の企画を行うなどの連携事業を展開する。</li> </ul>	<p>(取組 4 の活動指標)</p> <p>実施事業数： 2 事業以上／各年</p> <p>※数値目標：          ・実施事業数：延べ 10 事業／計画期間内</p>	<p>(取組 4 の活動実績)</p> <p>4 事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生英語プレゼンテーションコンテスト</li> <li>グローバル人材育成講座 (第 1 回・第 2 回)</li> <li>地域連携交流サロン</li> </ul> <p>※別途、大学コンソーシアム大阪・万博協会間の推進連携協定を締結。</p>	<p>S</p> <p>万博の開幕を間近に控え、既存事業を万博に関連付けながら様々なテーマでの取組を推進できた。また、2023 年 8 月には、大学コンソーシアム大阪・万博協会間で大阪・関西万博に向けた取組等の連携推進協定を締結した。これを機に万博協会等との連携のもと、大阪の大学のネットワークを活かし、学生の万博に対する機運醸成に貢献することができた。</p>

8. その他				<p>(活動実績)          &lt;日本インターンシップ学会との連携による取組&gt;          ・第24回大会への協力          (2023年9月)          ・関西支部との共催による研究会の開催          (2023年12月)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本インターンシップ学会と連携し、左記2事業に取り組んだ。9月の第24回大会ではシンポジウムが開催され、三省合意改正を踏まえた今後のインターンシップの在り方をテーマに、大学や企業、就活エージェント、中間支援組織のそれぞれの立場からの意見を踏まえた有意義な討議を行うことができた。なお、当日は中間支援組織の立場として大学コンソーシアム大阪事務局が登壇した。</li> <li>・12月の研究会では、「インターンシップにおけるさまざまな連携の記録」をテーマに、南大阪地域大学コンソーシアム、京都精華大学から事例発表が行われた。これを踏まえ、それぞれが有する強みを生かした有機的な事業連携の方策等について実りある意見交換を行うことができた。</li> </ul>
--------	--	--	--	--	---